

臨死体験における未来の記憶

齋藤 忠資

我々は臨死体験では、未来を体験したという記憶が残っているケースをすでに考察した。信頼出来る事例として①現実にかかる前に、未来の出来事が報告されていなければならない。②未来の出来事が、その後現実となった未来の出来事と細部まで正確に一致してはならず、単なる象徴的なものであってはならない。③その事例が信頼の出来る人から確かな方法で入手されている。④一般的に起こりえないと思われる未来の出来事の方が望ましいという諸点を挙げた。臨死体験では、自分の未来をあらかじめ体験するという「生涯展望体験」が生じる。¹⁾

脳・肉体意識は4次元時空内にあり、時間の制約を受けているので現在の事しか分からず、未来のことも過去のことも体験できない。脳・肉体を超えた意識は4次元時空を超えていて、時間の制約から解放されているので、未来のことも過去のことも体験できる。従って本人の未来のことも地球の未来のことも分かる。臨死体験者が会える死人や光の存在は、脳・肉体を超えた超意識的存在なので宇宙の全情報を備えていて、臨死体験者のことをすべて知っており、臨死体験者の未来のことも知っている。また、臨死体験では体験者本人がグループ意識（ソウルファミリー）の一員であることが分かる。臨死体験者の地上の人生に関わった人々は皆、グループ意識に属していることが分かる。このことは特に臨死体験者の全生涯展望で示される。本人の過去のみならず、未来も示される。従って未来の中には、本人のまだ結婚していない将来の妻や、まだ生まれていない子供が示されることもある。

すでに取り上げた事例以外で、代表的なものを考察しよう。

① 臨死体験者本人に、これから生まれる将来の子供の予告

① R.ウオラスは、臨死体験中にナタナエルというまだ地上に生まれていない子供と出会い、将来自分がこのナタナエルという子の母になるということが分かった。7年後に男の子を出産し、ナタナエルと名付けた。臨死体験の時に会ったナタナエルという子と、とてもよく似ているという。²⁾

② バイク事故で呼吸停止。心停止となり10分間蘇生術を受け、両眼とも光に反応しない。死んだ祖母が現れ、「戻って二人の息子を育てなさい。」と言う。「息子は一人しかいない。」と私が言うと、祖母は「息子は二人いる。」と言う。その時まで、私は妻が妊娠していることを知らなかった。8ヵ月半後に2番目の息子が生まれた。³⁾

③ 放射線医師が自動車事故で、15分間の心停止して、死を宣告される。臨死体験中に、生まれる予定になっている子供が「ママ、ママ、私はヘルメス。」と言うのを聞く。振り返ると髪の毛を長く伸ばした一人の子供が「ママ、私はヘルメス、ママの息子。ママが戻る

ことが僕には必要なんだ。」と言う。意識が回復してから、その子供の顔を描いた。それから3年半後、男の子が生まれ、ヘルメスと名付けた。その子の髪の毛は長く、私が描いた男の子と同じであった。⁴⁾

この例では、将来生まれることになっている子供から直接、誕生を予告されている。

④ 光の存在が、私は当時まだ結婚していなかったが、私の将来の妻と、まだ生まれていなかった子供達について予告した。その後その予告通りに実現した。⁵⁾

⑤ 臨死体験をして、天国の門の前で死んだ祖母に出会う。当時、私には二人の息子しかいなかったが、祖母は二人の娘が生まれると予告した。その後、その通りに二人の娘が生まれた。⁶⁾

② 臨死体験者に関係した人の死の予告

① 予定日より早目に出産した女性が病院で帝王切開。麻酔が強すぎて意識を失う。暗い通路の所で死んだ父に出会う。父は、「お前の息子を迎えに来た。お前の息子の肺と心臓は障害を持っている。手術は2回するが成功しない。お前の息子は私と一緒に行くのが一番良い。お前は、二人の健康な子供を授かるだろう。」と言う。意識が戻ってから赤子のことを尋ねると、主治医は「あなたの息子は肺と心臓に障害があつて、10分後に亡くなった。」と言った。⁷⁾

② 臨死体験をして、死んだ祖父に会う。彼は、祖母がまもなく死んでここに来ると言う。祖母は毎年、夏にマイアミに行っているから死ぬはずがないと私は言う。祖母はガンでまもなく死ぬと祖父は言う。祖母は3ヵ月後にガンと診断されて、8月に死んだ。このことを母に言うと、母は驚いた。⁸⁾

③ 臨死体験をし、トンネルの端で死んだ祖父母に会う。彼らは私ではなく彼らの娘を迎えに行くのだという。事実2日後に、私の叔母は死んだ。⁹⁾

④ 臨死体験をし、未知の霊の存在が、私の義母（夫の母）が4ヵ月以内に死ぬと言う。そして事実、義母は4ヵ月後に死んだ。¹⁰⁾

この例では将来を予告しているのは、死者ではなく霊的存在である。

⑤ ある大学教授の母が心臓病で臨床死。通夜の時に母の指が動いたので、まだ生きていると分かる。母は臨死体験中、光と喜びに満たされた国にいて、雪のように白い頭髪と、雪のように白いあごひげのある親切な老いた男性に、地上から再びここに戻る時、娘のアヴェリーナと一緒に連れてくると言うと言ってくれた。このことを生き返った母は身内の者に言うと、1919年7月18日に死んだ。そして同じ年の8月19日に、娘のアヴェリーナもまだ3歳だったが、後を追うように死亡した。¹¹⁾

この例では、自分の子供の死を予告するのは、臨死体験をした母である。

⑥ ある女性が両親のいない3人の子供を引き取り、ストレスで倒れ入院。綺麗な花園で光の人物が「あなたは重い心筋梗塞である。」と言う。「なぜ知っているのか？」と、その女性が聞くと「霊の存在には時間と空間制約がない。まず3人の子供をあなたが回復するま

で施設に戻しなさい。3人の子供は施設よりあなたの家の方がよいことが分かる。3人の子供に、なぜあなたが病気になったのか言い聞かせなくてはならない。3人の子供が再びあなたの所に戻った時、ずっと上手くいく。将来あなたは他の孤児を引き取ることになる。今の3人の子供は皆よい教育者になる。」と光の人物が言う。この予告はすべて実現した。¹²⁾

この例では、臨死体験者自身の将来について、光の存在から予告されている。予告の内容は想像できるものであるが、複数のことが正確に現実となるという確率は少ないと思われる。

⑦ 母は別の病院で昏睡状態。私は臨死体験をし、暗いトンネルの中で母に会う。母は戻るように私に言う。母は数日後に光へと行くが、私もすぐに再会すると言う。母はそれから25日後に死んだ。¹³⁾

【註】

- 1)拙論、4次元空間と臨死体験、人間文化研究、9,2000,4~14
- 2)The Burning Within,Gold Leaf Press,1994,115~116.204~205
- 3)www.nderf.org/eugene-w-nde.htm
- 4)www.nderf.org/marta-y-nde.htm
- 5)K.Ring,Lessons from the Light,Insight Books,1998,38
- 6)www.nderf.org/frank-c-nde.htm
- 7)J.Michels,Berichte von der Jenseitesschwelle,Goldmann Arkana,2008,66~68
- 8)www.neardeath.com/turner.html
- 9)G.Ewald,An der Schwelle zum Jenseits,Matthias-Gruenewald Verlag,2001,33~34
- 10)www.nderf.org/juanita-m-nde.htm
- 11)B.F.Reyes,Scientific Evidence of the Existence of the Soul,1948
- 12)J.Michels,Berichte,199~202
- 13)www.nderf.org/lisa-l-possible-nde.htm